

戦争遺跡探訪(9)

今回も戦争に関係したいくつかの遺跡・遺物を巡ってきたので、それぞれの歴史的な背景を含めて記述する。訪れた順に8項目を掲載した。その旅程で、補足的な見解や戦争に関連しないことも書き加えたが、余計なことだったかもしれない。

①東京砲兵工廠跡(東京都文京区・礪川公園)

戦前、東京都文京区小石川の一带に陸軍の兵器工場があったという。その名残をとどめるトンネル入口跡があるというので、私は2019年3月28日(木)の午前中に訪ねてみた。地下鉄の後楽園駅に出た。午後から某大学の公開講演会があつて、それを聴講するついでだった。

ここに陸軍の砲兵工廠(官営の軍需工場)の、東京砲兵工廠小石川工場があつた。明治政府が1871年(明治4年)に旧水戸藩邸跡に工場を建設し、主に小銃の製造を始めた。そして設備の拡張や近代化があつ

たが、関東大震災で大きな被害を受け、本格的な復旧をあきらめ、小倉工場に製造機能の移転を図り、小石川工場は1935年(昭和10年)に操業を終えた。

こんな都会のご真ん中に兵器製造工場があつたとは、信じがたいことだが、軍にとつてここは都合のいい場所だつたようだ。中央線にも近いから、物流に便利だつた。(山手線内の中央線部分の曲がりくねつたルートは、軍部の意向が反映されたものと言われている)

その後、その跡地が払い下げられ、主なところとして、東京ドームのある後楽園球場などレジャー施設になつた。水戸藩邸の庭園部分は、砲兵工廠内に取り込まれていたが、大部分がそのまま保持され、今の「小石川後楽園」になつている。なお、園内にも遺物的なものが置かれていた。ひっそりとして目立たないものだから、多くの人は気づかずに通り過ぎていたろう。

その小石川工場・遺構の一つといふべきトンネル跡が、礪川公園にある。この公園は地下鉄・後楽園駅のそばにある。近所の住民が集うような公園で、西洋庭

園風な造りだ。公園自体は後年に造成されたものだ。そんな広くない礮川公園だから、それは簡単に見つけられそうだが、そうではなかった。見回してもそれらしいものは見えない。植栽が繁茂した一角に目星をつけ、私が分け入るように入ると、奥まったところにやはりそれがあった。がっちりしたレンガ作りの構造物だ。古さを感じさせる。



東京砲兵工廠のトンネル跡  
銃砲の試射のために作られたという

トンネルの中にむやみに入りたがる人がいるらしく、その侵入を防ぐため、その周囲は柵で囲われ、立入を禁止する札が掲げられていた。

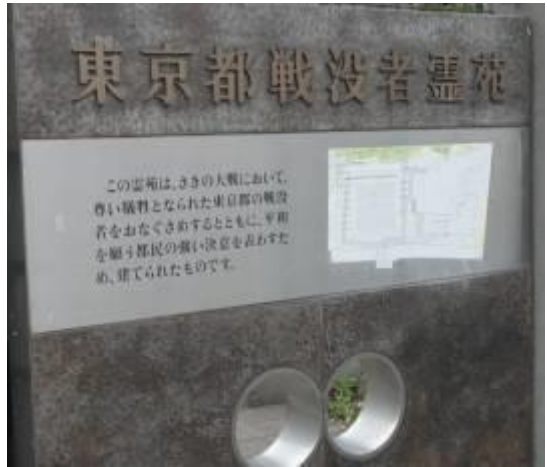
公園を管理する役所（文京区）としては、これを一般に公開したくないようだ。隠しておきたいらしい。私としては、由緒ある構造物なので、文化財（近代建造物など）に登録するなりして管理してほしい。このままでは荒廃してしまいそうだ。今でも廃墟の様相を呈している。

情報によると、このトンネルは、明治16年～18年頃に完成と推定され、主に軍用銃などの試射用の場所として使用されたものだそうだ。つまり、トンネルの中で試射することで、発射音を外に漏れないようにしたものだろう。暴発や的に外れた場合の被害を防ぐ目的もあったかもしれない。

昭和17年からは、民間のライフル射撃協会に貸与された。「小石川トンネル射撃場」として、選手の練習や競技にも使われた。1999年3月でこの役目を終えたとのこと。（「文京区ライフル協会」ホームページによる）

このトンネルを覆う地層の上に位置するのが、戦没者霊園だ。

ここも東京砲兵工廠の敷地の一部だった。「東京都戦没者霊苑」という名の近代的な建造物がある。戦没者というから、戦病死した軍人のための霊苑だろう。少々冷厳な、近付きがたい雰囲気がある。これも戦争に関係する場所だが、私は入るのを遠慮した。ここにも戦時中の遺品などが展示されているという情報がある。またこの辺には戦時中、空襲に対抗するための高射砲陣地があったところだという。



東京都戦没者霊苑の表札

② 東郷公園の水雷など（埼玉県飯能市）  
2019年12月15日（日）、埼玉県吾野地区の東郷公園へ行った。西部飯能線の吾野駅から北西に約1km歩くと、東郷公園の入口がある。ここは「子の権現」へのハイキングコースの起点にもなっており、私は数年前に、その標識を横目で見ながら歩いたことがある。その後日、東郷公園には日露戦争にちなんだ兵器がいくつあることを知ったので、素通りしたことをやや後悔していた。

東郷公園の一带は、主に山岳信仰の「聖地」になっており、奥の院が山頂にある秩父御岳神社をはじめとして山の斜面に多くの神社や古風な家屋が点在する。複数の通路が張り巡らされ、上り坂や階段も多くある。それらを巡って登っていくには、それなりの体力と時間が必要だ。ここを訪れて、それがわかった。

見どころが多いから、それなりに楽しめるところだ。無料だが、入園料として賽銭をいくつかの神社に置いてくるのも、たぶん悪くない。行き交う人を見ると、観光客らしい人々が比較的多く来ていた。彼らは車で来ていたのだろう。

この中に、東郷神社がある。日本海海戦の英雄・東郷平八郎を顕彰し、神格化している場所だ。その偉大な軍功を称え、立派な銅像も立てられている。

ただし東郷平八郎だけが偉かっただけではなく、優秀な部下を持ったこと、イギリスで建造された最新軍艦・三笠などの兵装の性能がよかったことからあの海戦に勝てたわけだろう。特に砲術の技量で差があり、日本軍の砲撃の命中率が格段に優ったからと分析される。それにバルチック艦隊の乗組員たちは長い航海で疲れきっていた。



東郷公園にある東郷元帥銅像

私としては、東郷個人を持ち上げすぎると考えてしまう。実際に作戦を考えた参謀・秋山真之などによる

ところが大きい。でも、秋山は勝利したことに関し「天佑の連続だった」と言っていた。天は謙虚な者に味方するようだ。しかし、勝因を天佑としてしまうのでは、分析不足だろう。「運がよかった」と言っているだけだ。そんな運を天に任せるようでは、もう次の戦闘には勝てるはずがない。

「東郷神社」はここだけではない。私は2011年1月に、東京・原宿駅に近い「東郷神社」にも訪ねたことがある。その社はおそらく建て直されたものだが、大きなものではないにしろ、コンクリート製の重厚な造りだった。その境内にはいくつか砲弾と、よく整備された庭園があったという印象だった。結婚式場が隣接されていたから、東郷は縁結びの神でもあるらしい。さらに情報によると、福岡県福津市にも東郷神社があるという。複数の神社で祭られているのだから、東郷は軍神そのものだ。東郷が軍神になれたのは、上昇気運に乗れた明治のよき時代だったから、とも言えるかもしれない。

晩年、彼は1930年のロンドン軍縮会議で強硬派の主張を支持したことで知られる。日本が軍艦の保有数を制限されたことへの不満を高めたことになる。国際的協調性に欠けていたわけだ。

東郷以外にも、乃木希典や児玉源太郎を軍神として祭る神社がある。「児玉神社」が湘南・江ノ島にあるとは、つい最近まで私は知らなかったし、気づかずに通り過ぎていた。彼らは「勝てば英雄」になれるという典型だろう。

乃木希典など、1904年（明治37年）8月から旅順攻撃で下手な作戦（ロシアの近代的な要塞を前にし、生身の将兵を突撃させ、ことごとく失敗。主に機関銃で多数がなぎ倒された）を繰り返していた。予期されなかった長期戦になった。疲労困憊した（うまくいかないものだから、ほとんどふてくされていた）乃木を助けたのが児玉源太郎だった。児玉は要塞を攻めるために重砲を用いる作戦を指揮し、同年12月になつてようやく二〇三高地を占領した。翌年1月に旅順を攻略できたのは彼のおかげだろう。

昭和になつてからは、司馬遼太郎がサジを投げたように、だめな日本になった。東郷と比較の対象になりそうな山本五十六など、国際的には真珠湾をだまし討ちした卑怯者と評される。だまし討ちでもしないと、日本はもう勝てなくなつていたという事情があつたにせよ、いきなり先制攻撃というアンフェアなやり方で、軍港に停泊していた多数の戦艦（威容を誇つたものだ

が、もう時代遅れになりつつあった）に大打撃を与えたのだから、アメリカを本気で怒らせた。私が彼らの声を代弁すると、

「許せん！ あいつだけは生かしちやおけねえ！  
リメンバー・パールハーバー」

「ナニー、空からだけでなく、海中から特殊潜航艇で魚雷攻撃を仕掛けてきただど？ あいつには、真珠湾に忍び入った乗員たちを生きて返さず気があつたんかよ。あんなチャチなもの、自力で戻れないだろ？ 部下を何人もわざと見殺しにして、自分は英雄気取りかよ」

アメリカでは、不当な行為に仕返しをしなければ、正義がすたるのだ。ただし、アメリカ側（特に政権のトップ）はその攻撃をとうに知つていたというから、だまし討ちじゃなかったという説も出ている。私もそう思う。

ともあれ、それによつて彼だけでなく日本の国民性にも「卑怯ものたち」のレッテルがべつたりと貼られたわけだ。その後、彼の国の日系人たちが収容所に押し込められたり\*1、日本の各都市が無差別に空襲されたりするなどの仕返し、的仕打ちの遠因になつたと私はみる。

\*1「日系人強制収容」 12万人以上の日系人が「敵

性国人」としてカリフォルニア州など10カ所以上の収容所に入れられた。今でも彼らは恨み節を唱え、不当な扱いに抗議し、州政府に謝罪を迫ったりしている。「そもそも、あいつがサプライズ・アタックをしなれば、こんな目に合わずにすんだのだ」などと、祖国の恥として恨んでいたことだろう。

1943年4月に山本五十六は、そんなアメリカ国民感情を知ってか知らずか、ソロモン諸島の上空を飛んでいた。6機の戦闘機（ゼロ戦）を引き連れ、軍用双発機でのうのうと移動していたとき、アメリカ戦闘機隊によって討ち取られた。

山本が乗った軍用輸送機は、暗号で到着先に連絡した時間通りに島を通過していた。暗号がアメリカ側に解読されていたとは思わずに……。戦闘機（ロッキードP-38）の航続距離が限られていたから、すこしでも時間が前後すれば、遭遇しなかった。アメリカ軍にとっては狙いどおりの作戦行動になった。ゼロ戦など相手にせず、すばやく輸送機を攻撃した。

「やったー、真珠湾のかたきをとったぞ！」と、アメリカ軍飛行士たちは歓喜したわけだ。ガッツポーズをしたことだろう。火を噴いて落ちていく輸送機に対し

「Serves you right (やまあみろ)」とでも言ったにちがいない。

その後も太平洋戦争は続き、1945年6〜8月になつても降伏しようとしぬ日本に対し、連合国軍幹部たちが考えただろうことを私が言葉で表現すると、次のようになる。彼らの耳には、日本の情報がかなり詳しく入っていたことは確かだろう。

「これだけ叩いても、なぜジャップは全面降伏しないんだ？ だれも戦況判断がでいいのか？ これでもまだ勝てると思ってるんか？ 日本には責任者がいないんか？ ナニー？ ヒロヒトが統帥権を持つているって？ あいつが軍部のトップにいるのか？ 担ぎ上げられていただけだろう。ヒロヒトは、近代的な戦争がどんなものか、わかっているんだろか？ わかっているじゃないじゃないか？ それでも、補佐する者が優秀であれば、少しはまともな判断ができるはずだが……。結局は、大権を軍人たちに丸投げしているだろ？ 彼らは、国力にいくら差があつても、策を弄せば、戦争に勝てると思ひ込んでいる連中だろ。ヒロヒトを戦いの神とあがめているんだろ」

「軍部が暴走しただと？ 軍部だけが悪いんか？ そうではないだろう。文民が協力しなければ、軍部があ

れだけのさばることはないし、体制も作れない。暴走を止めようとしなさい。それまでも軍が大陸で戦闘行為をしていたのに、『戦争』と言わずに、事件とか事変とかに言い換えて黙認していたんだろ？ 軍のクレーターが怖かったんか？ そもそも、トウジョーを厚く信任したのは誰なんだ？ ヒロヒトには、よからぬ取り巻き連中がそろったものだ！」

「どいつもこいつも責任逃れしたいんか？ そうはしません！ 戦争を企て、指導した政府のやつらなど、あとでまとめて戦犯として裁いてやるからな！ リストからもれたら、幸運と思え！ 幸運というより悪運というべきだな」

「ナニー？ 一億玉砕だとお？ ナニ考えているんだ、ジャップどもめは！ 負けを認めたくないからって、いまさら勝てそうもない作戦など、考えるよ。ナニー、停戦交渉をすこしでも有利に進めたいから、せめて一発くらわせたいたとお？ 得意なだまし討ちは、もう使えんよ。レーダーでお見通しだ。こちらら、カミカゼ（特攻）に対しても対応済みだ。兵隊たちの射撃訓練にちようどよい。テロ攻撃を仕掛けてくるなら、容赦はしない」

「何だ、あれは？ 西の空から風に乗って飛んできた

ぞ。風船爆弾？ 風任せとは、笑わせるなよ。骨折り損のくたびれ何とかだろう」

「ナニー？ 本土決戦だど？ テメーらに、まともな武器があるんかよ。女子供に竹槍を持たせるのかよ。向かってくるなら、やってやるよ。だれであろうと、手加減しない。〈ジャップを見れば兵士と思え〉だ。沖繩戦でやったことをまた繰り返すわけかよ」

「x x xみたいな奴らめ！ ええい、原爆を落としたれ！ 一発では足らんか？」

など言っていたと私は推測する。「リメンバー、パールハーバー」の怨念はそうとうに大きかった。

さて、東郷公園の東郷神社入り口前の左右には、水雷と砲弾がある。説明書きによると、この水雷は、ロシア軍が旅順港入り口に付設したもので、日本軍艦船が進入しないようにしたものだ。戦後引き上げて海軍が所有していたものを神社がもらったものだ。

水雷は機雷（機械水雷の略）というのが一般的だ。船舶がそれに接触したり、近付いたときに磁気を感じたりすると、水中で爆発する。接触を感じるための突起をつけたものは、いかにも水雷らしい形だ。本体はだいたい球形をしており、サイズの大小があるし、

仕掛ける方法によりいくつかの種類に分けられる。浮遊させておく浮遊機雷、ブイや錘おもりに取り付けて水中に留めておく係維機雷、海底に沈めておく沈底機雷がある。



石段の両脇にある水雷と砲弾  
(中央の石柱はないものとして見てほしい)

この写真にある水雷はロープで海底に沈めた錘とつながれるタイプのものだが、ロープの取付金具が上にある。つまり天地が逆向きになっている。でも、こう

しないと、展示するには座りが悪い。

機雷といえば、私などは子供のころ学校の校庭で(昭和30年代、夏休みの夜などに映画の上映会があった)、漂流した機雷が海岸に迫ってくるのを少年たちが発見するという「恐怖映画」を見せられ、はらはらどきどきさせられた記憶をもつ。ただし、これは事実に基づいた映画であつたらしい。

調べると、太平洋戦争のときに、アメリカ軍が1945年3月から8月までに大量に機雷を敷設する「飢餓作戦」を実施した。のべ1,200機のB-29によって計1万発の沈底機雷を日本近海の海上交通路に投下した。これによって、港湾や海峡で船舶が触雷し、爆破される被害が増大したから、日本の海上物流がますます停滞した。関門海峡では今でも危険性があるという。

それに対し、日本側でも、機雷を敷設した事実がある。たとえば、バシー海峡(台湾とフィリピンの間)の航路を敵の潜水艦から守るため、周辺の海域に機雷を置いた。ブイで吊るす方法だった。バシー海峡では多くの日本輸送船が撃沈された。護送船団を組んで航行していたけれど、海域が広いから、機雷では守れなかった。



写真で右側の砲弾はロシア艦が三笠に向けて発射した主砲用の砲弾だという。もちろん実際に発射されたものは破片になってしまいうから、未発射の砲弾を分捕ったものだろう。



戦艦三笠の船体の鉄板  
ロシア艦隊の砲撃を受けてボコボコにされた。  
そばで不審者が見ていた。

近くの場所には、バルチック艦隊の矢面に一時的に立った戦艦三笠の、砲撃を受けた跡のある鉄板(甲板の一部)が展示されている。

三笠が被弾したのは記録によると、三十センチ砲10発、十五センチ砲21発だったという。大きな破損だったが、かろうじて沈没はまぬかれ、艦隊の旗艦としての役割を果たせた。もしも、損壊が拡大し、火薬にでも引火すれば、三笠も危なかったのが実情だろう。



戦艦三笠  
2011/8/28 横須賀の三笠公園で、要塞跡が残る猿島へ渡るための船を待つ間に撮影。手前中央の円形花壇には銅像が立っている。

その三笠は、今では横須賀・三笠公園の岸上に固定されている。「記念館三笠」として展示され、観光名所のひとつになっているが、これは大規模な修復が行

われたものであり、海戦直後の無残な姿を表している。大型模型のようなものになっている。日本の誇りとして（イギリス製を誇りにした？）人々が熱意を持って三笠の保存に動いた結果だ。

ロシア軍からの分捕り品がほかにもあるので紹介しよう。ロシア製3インチ野砲（1901年製）だ。



ロシア製3インチ野砲  
壁際には砲弾類が陳列されている。  
至誠館の窓（鉄格子）の間から撮影したもの

これは日本軍のものより使用が簡単で命中率も優秀

だったという。陸上戦で日本軍が苦戦した理由の一つに挙げられている。それでよく勝てたものだと感心する。（ほめているわけではない）これは至誠館と称される洋館の半地下室に置かれている。部品が盗難にあつてからは窓に鉄格子が設置されたようだが、間近に見物できる。この洋館は東郷元帥が来山の折、ご休憩に使われたという。

### ③空襲で破壊された狛犬（横浜・三溪園）

三溪園は横浜市中区にあつて、風光明媚な、広大な日本庭園だ。実業家・原三溪（本名、富太郎）が、明治から大正にかけて全国の文化財的な家屋を寄せ集めたところでもある。その後も維持管理がなされている。古い日本家屋や寺社建築が多い。個人的な趣味が反映されている。何と、古墳時代の石棺までが庭に転がっていたりする。それぞれ見て回るには、けっこう時間がかかる。

私がここに来たのは二、三度目になるが、今回また2020年1月元旦に訪れたのは、空襲で破壊された狛犬があるとの情報を得たからだ。

戦争中、昭和20年にここでも空襲を受けた。惜し

まれる家屋の損壊もいくつかあった。大池の東岸にあった皇大神宮や楠公社は全壊した。楠公社の狛犬がその破壊を証言している。



頭部が欠けた狛犬石造  
三溪園・天満宮

楠公社の跡地に、近くの本牧の丘の中腹から昭和52年に天満宮の社が移されたが、狛犬はそのままだった。向かって左側の狛犬の頭部が破壊されている。

入園客たちは、古い石像にはよくある破損だろうと思っただけか、それを気にも留めていないようだ。

なお、神社には空襲の傷跡（焼夷弾攻撃による火災を含む）が残っているものがいくつかあって、ときわ

台天祖神社にもそれがある。私は2019年11月3日に、別件の探訪のついでに、そこへ寄ってみた。池袋から東武東上線に乗って、ときわ台駅で降りると、歩いて3分ほどのところに天祖神社がある。参道をゆくと、左右に狛犬が座っている。右の狛犬の台座に爆弾の破片が当たったといわれている。確かに、裏の中央にへこみがある。こちらは軽微な破損だ。



狛犬の台座にある空襲の痕跡  
天祖神社・東京都板橋区常盤台

④火薬工場跡（横浜市保土ヶ谷区たちばなの丘公園）

2020年2月13日（木）横浜市保土ヶ谷区にある火薬工場跡を尋ねた。私は横浜で某大学の一般向け講座を午前中に受けてからの帰りに寄った。相鉄線上星川駅から歩いていった。

地図を見ると、途中に横浜水道記念館があるから、ついでに寄ってみた。行ってみると、ここでは広い浄水場の一部を見学者用に開放し、りっぱな建屋の記念館がある施設だ。記念館は、大きな噴水施設を前にして、明治時代の建屋を模している。

自由に見学できるから、私以外に数人の来客がいるだけの施設内をゆっくり見て歩いた。野外にも、見上げるような、宇宙船的な巨大タンクがあるし、古い水道管、重厚なバルブやポンプなどの機械類が展示されている。水道に特化した博物館になっている。



巨大な水道タンク  
横浜水道記念館の敷地で

隣の敷地（西谷浄水場）には、現在稼動していると思われる施設があり、その中に奇妙な形の建屋が見える。

奇妙な形の塔がいくつか並んでいる。中に何があるにしろ、外観が面白い。私はその画像をネット上で見たことがあった。奇異な建築物の一つとして紹介されていた。



横浜水道・西谷浄水場の特異な建築物  
横浜水道記念館から遠望した。

「ああ、ここにあったのか！」

私は、機会があれば、それを見に行きたいと思っていた。その施設の中に一般人が入れそうもないのは残念だが、遠くから見ただけでよしとしよう。得した気分です、そこをあとにし、緩やかな坂のある道を歩いてゆく。周囲には未開発の雑木林や耕作放棄されたような、起伏のある土地がまだあるが、開発が進み、徐々

に都市化されている。

やがて左側に有料老人ホーム（サンシティ横浜）があるところに来ると、右に雑木が茂った丘がある。たちばなの丘公園の一角だ。この辺りは自然の樹木が豊富にあり、なかなかいい環境だ。そのサンシティ横浜の敷地にも、かつては工場の資材置き場などがあって、トンネルで結ばれていたという。そのトンネルは埋め戻された。

この辺りには、火薬工場があった。大正6年（1917）に創業の民間火薬製造工場があった。戦前は主に軍需品を作っていたというが、戦後も民需のために株式会社「日本カーリット」保土ヶ谷工場の名で操業していた。1955年8月には大きな爆発事故を起こし、作業員3人が死亡した。

火薬工場は人家などから一定の距離を置かなければならないなど、安全上の制約があったから、手付かずの自然が多く残された。たちばなの丘公園の周囲はコンクリートの塀で囲われたという。これも安全を考慮してのことだ。それを知る手がかりのために、コンクリートの塀は一部のみ残されている。

周辺の都市開発が進むにつれ、火薬工場としては、環境が悪くなってきた。安全確保が難しくなったこと

で、同社は1995年（平成7）にこの保土ヶ谷工場を閉鎖し、群馬県赤城工場へ全面移転した。この公園部分の敷地を横浜市が買い取り、2011年に公園整備を完了したという。



たちばなの丘公園の土塁とトンネル

公園の中に平坦な窪地がある。楕円形のトラックのようでもある。その一つの側面に、五、六本のトンネ

ルが等間隔で並んでいる。かつての工場（作業場）は、丘の斜面を背にし、正面は土塁で囲われていた。それぞれの通行のために土塁にトンネルが設けられた。複数の部屋のために、トンネルはそれぞれ付けられた。



たちばなの丘公園の土塁とトンネル  
トンネルの入口は鉄製の扉でしっかり閉められている

公園化するに当たって、建屋は撤去され、更地さらちにされたが、地形の再造成は最小限に抑えられたようだ。

一部のトンネルはふさがれたが、多くのトンネルはそのままだ。トンネルの長さは5、6メートルほど。つまり、それが土塁の厚さになる。でも、それぞれトンネルの入口は、公園整備の一環で柵や扉が設けられているから、一般人は中に入れない。工場があった場所には近づけない。柵のあるトンネルの向こうに、わずかに見えるだけだ。（更地を見てもしようがないが：…）いくつか設置された説明板によつて、工場の概要がわかる。つまりここは火薬工場の遺構を見学できる野外博物館的な施設になっている。

#### ⑤ 神山神社の魚雷（小田原市久野）

久野地区にある神山神社の境内に魚雷が展示されていることをネットで知った。砲弾や水雷を置いている神社はありふれているが、魚雷は珍しい。

小田原市久野地区といえ、古墳時代の古墳群があることで知られていたもので、いつか見に行こうと思っていた私はついに見て回ることにした。地図を見ると、「山神社」がそのコースの途中にあったから、ちようどよいと思った。「山神」は表記の間違いではないか、と思い込んだ。小田急・足柄駅から歩いて行

けるところだ。

坂を上がっていった先にその神社があったが、そこではどこを探しても、肝心の魚雷は見当たらなかった。保管のために境内にある収納庫にしまわれているのだろうかと思つたが、それにはしつかり鍵がかけておられ、のぞきみすることもできないので、あきらめた。心残りながらも、古墳群を見て回った。



小田原・久野4号墳  
横穴式石室の前に不審者がいた  
(にわか考古学者?)

横穴の中をライトで照らし覗き込むことができたし、公的に整備された植物園「フラワーガーデン」にも立ち寄って観光した。大きな楕円形の屋根を持つドーム（熱帯植物が生い茂る温室）を中心とする広々とした施設に、私などは年齢条件により無料で入れたから、それなりに得るところがあった。

魚雷がなかったことに疑問に思っ、家に戻ってからネットを調べ直すと、神山神社の場所が山神社とは違っていた。つまり、山神社は表記の間違いではなく、別の神社だった。（紛らわしい名前だ）などと思っではいけない。地図で探すときに、私の目は古墳群の方に行ってしまったからであり、そそっかしかつた。

改めて、2020年2月22日に足柄駅に降り立った。久野古墳群へは北西方面だが、神山神社へは南西方面に行く。しばらく山王川に沿って歩くと、傾斜地の中腹を切り崩して平らにしたようなところに山神社があった。ここは格式の高い神社らしく、屋根の造りがなかなか立派なものだった。永延2年（988）創建といわれる。同じ久野地区だから、古墳の被葬者と関係があるのかもしれない。祭神は伊弉諾命、伊弉冉命、天照大神だ。

閑散とした境内の、山側斜面にいくつかの忠魂碑が立てられているそばに、それがあつた。茶色に錆びた鉄の長いかたまりが、簡単な造りの屋根の下に横たわつていた。まさしく魚雷だ。ちなみに魚雷とは、魚形水雷の略だ。水中を高速で進み、敵の艦船を爆破する兵器だ。相当大きな船でも、一発で撃沈させる威力を持つ。



神山神社の魚雷  
背後には忠魂碑が並んでいる



太平洋戦争で、日本の輸送船などは、潜水艦による徹底した魚雷攻撃などで、物的・人的に多大な被害を受けた。戦略的な敗因の一つとなった。それに対し日本海軍の潜水艦は、敵の輸送船をほとんど標的にしなかった。輸送船を沈めても、戦功の一つにならなかったのだ。（たぶん魚雷がもったいなかったのだろう）



神山神社・魚雷の尾部

数年前まではその屋根も無く、風雨にさらされていたというから、ところどころ腐食が広がっている。けれど、ほぼ原形をとどめている。なぜこんな、ぶつそうな兵器が神社の境内にあるのか、疑問が膨らむものだ。その答えとしては、戦没者の霊を守護するものとして、そして、人々の戦意高揚のためのプロパガンダとしての役割があったのだろう。武勇を奮い起こすものとして、武力の象徴的に置かれたものだろう。



神山神社・魚雷の頭部

この由来について、ネット上のサイト「依代之譜」さんの記事が詳しいので、その一部を引用すると、

防衛研究所に、この魚雷に関する記録が残っている。

海軍省公文備考「廃兵器無償下附の件」昭和2年

一、四十五口径三十六糎被防徹甲弾二個

一、四十五糎魚形水雷頭部共一個

右神奈川県足柄下村久野郷社神山神社備付用記念品

トシテ同社司ニ対シ下付

するよう昭和2年9月、横鎮長官に訓令した。ただし砲弾は10月に三十糎教練用砲弾に変更された。

つまり、廃棄する兵器（ガラクタ？）を神社の備品としてタダで下付していたことがわかる。地元・神社側の求めに応じて海軍省が下付したという形をとっている。

その記録が示すように、神山神社は砲弾二個をもらっていたが、それらは、情報によると、砲弾に火薬が残存する疑いがあり（まさか？）、2003年に撤去された。この際、砲弾を処理した海上自衛隊が魚雷を調べた結果、全長5・2メートル、直径45センチ、明

治44年制式と推定されたという。

これがどんなタイプのものか興味があるのは私だけでない。いくつかの情報を調べると、これは四四式2号魚雷という種類のものだという説が有力だ。四四式とは明治44年を意味する。それ以前の魚雷は輸入品であり、これ以降国産化されたという。（欧米列国は、もう日本に魚雷を売ってくれなくなったのだから）

魚雷に関する資料によると、四四式二号は径45センチあるが、この魚雷はそれと同じサイズだろうか、ふと疑問に思い、確かめたくなった。（海上自衛隊の調査に間違いはないと思うけれど）できればミリ単位の精度を得たい。しかしながら、メジャーで径を計るのは難しい。輪切りにして直径にメジャーを当てたりして測らないと正確ではないだろう。

考えているうちに、輪切りにしなくても計れる方法を思いついた。断面が円ならば、周囲を測って、3・14で割れば、直径が求められる。自慢することでもないが、我ながらいいアイデアと思った。

早速、2020年2月27日に私は再度神山神社を訪れ、メジャー（かつて、釣った魚のサイズを測るために購入したもの）で計ってみた。壊れそうな遺物を手で触ったりするのは本来よくないのだが、許容して

いただきたい。そして計ると、周囲144センチだった。つまり、径45・8という計算になる。0・8は錆の厚みかもしれない。



神山神社・魚雷  
メジャーで胴囲を測る

長さは約5・2メートルだったから、それも四四式二号魚雷の仕様とほぼ一致する。

神山神社の境内には、ほかにも戦争に関係したものがあつた。それは防空壕だ。それを断定できる根拠は

ないが、私はその形から、戦時中に造られた防空壕だろうと推定する。山側の壁面に、横穴の跡が約10メートル間隔で五、六カ所観察される。多くはブロックなどで入口が完全にふさがれているが、二、三の穴の上部が数十センチ開いている。



防空壕らしい横穴  
不審者が開口部をのぞき込む

空襲警報が鳴ったとき、近所の多くの人がこの防空壕群に駆け込み、穴の奥でうづくまる姿が、私の目に

浮かぶ。

この後、同じ市内の寿町へ歩いて行った。機銃掃射の弾痕を見にいくためだ。

### ⑥機銃掃射の弾痕（小田原市寿町・青橋の橋桁）

青橋とは、小田原駅から早川駅方面に約400メートル下ったところにかかる道路橋だ。並行して走る東海道線と箱根登山線の線路をまたいでいる。小田原城天守閣が間近に見られるところだ。架け替えられる前の青橋が、戦時中の昭和二十年8月に、米軍戦闘機の機銃掃射にあった。8月の何日かだったかは、はっきりしないという。小田原市街への爆撃のことは、以前にもこのシリーズで報告したことがある。

機銃の威力はすさまじい。橋桁の鉄板を撃ち抜き、弾痕を残した。駅を狙ったものが、流れ弾となったものだとされている。

1993年、その橋が架け替えのために取り壊され、橋桁の鉄板はスクラップにされるところだったが、工事を請け負った株式会社「田中組」の先代社長がその部分をもらい受け、保存していたものという。それが今日、小田原寿町に残っている。小田原空襲の「証拠

物件」であり、貴重なものだろう。



旧青橋の橋桁部分  
(小田原寿町の道路沿いで)  
機銃弾痕があることが示されている。  
廃材のレールが台になっている。

現社長がそれを受け継ぎ、先代がそうしていたように、移転した社屋（事務所という）の前に展示している。小田原寿町5丁目交差点付近に行けば、通りすがりに、それを見物することができる。

しかし、建屋の軒先に展示されているもので、風雨

にあたるから、ここでは適切とはいいがたい。もつと公的な場所で、しかるべき管理・保存をほどこすべき、と私は思うが……。見ると、鉄板に直径1センチほどの穴がある。アメリカ軍戦闘機の機銃のほとんどが12.5ミリの銃弾を用いていたから、その弾痕というのは確かだろう。

この日（2020年2月27日）、さらに私は、酒匂神社にある砲弾を見に行った。

### ⑦ 酒匂神社の砲弾（小田原市酒匂）

酒匂神社は、小田原市東部の鴨宮駅から南約1キロのところにある。酒匂はこの辺の地名であり、酒匂川の由来にもなっているようだ。国道1号（昔の東海道）から、参道のような道がついている。そこを北へ約300メートル進むと、酒匂神社がある。由緒ある神社で、境内にはまとまった杉林があり、保護対象の樹林として登録されている。私が境内をうろうろしている間にも、参拝者が一人二人来て社殿の前で手を合わせていた。

付随する一つの社の中に朽ち果てたような木製の神像がいくつか集められて収蔵されていたことに、私は

少々興味を持った。神社の神像は大事にされない傾向があつて、これらもかなり残念な容貌となっている。その社前の左右にいる二頭の石造狛犬（イノシシに見える）がなんともかわいらしいけれど……。

さて、砲弾があると聞いて私は尋ねてきたが、見つけにくかった。どこにあるのか、境内を一周して探り歩いたが、見つけられなくてあせり始めた。



酒匂神社の砲弾  
傍らには戦没者にちなむ石碑がある

そして周囲を見直すと、なんと慰霊碑のすぐ横にあった。植栽に隠れ気味だったとはいえ、こんな大きなものが目に入らなかつたとは……。

数々の神社にある砲弾の中でも、ここの砲弾は有数の大きさだ。植栽を背にして直立しており、堂々とした風格がある。これを巻尺で計ると、長さ93センチ、周囲101センチ（直径32.2センチ）あった。

情報によると、これは加式三十二糶砲用の加式通常弾だそうだ。

小田原の戦争遺物に関しては、『伝えておきたい小田原の戦争と平和』小田原市総務課発行のリーフレットが詳しい。

### ⑧多摩陸軍飛行場の防空壕（都立野山北・六道山公園）

多摩陸軍飛行場は、戦後米軍が駐留し、横田基地になっっている。瑞穂町と福生市にまたがる広大な平地だ。横田基地から北東に2〜3キロのところは丘陵地帯があり、その約半分が都立野山北・六道山公園として整備されている。その他の部分は、狭山湖の水源地として立ち入りが制限されている。

戦争中、陸軍の飛行場は連合国側の空襲目標になるから、被害を避けるために、軍は物資を隠そうと、この丘陵の、いくつかの谷戸（低湿地）の斜面に多くの横穴を造った。三ツ木地区一帯でも、76の横穴を掘ったといわれている。

そんな情報を聞きつけた私は、2020年3月20日（春分の日）に行ってみた。風がやや強く吹いていたが、よく晴れた暖かい日だった。八高線・箱根ヶ崎駅から、青梅街道に沿って、東へ歩いた。例によって気ままな街歩きをし、いくつかの名所や古刹を見つけては見物した。この日は春分の日、お彼岸であり、お寺では墓参りの人でにぎわっていた。

横田基地の方の空を見ると、時おり4発プロペラの大型輸送機が飛び上がっていた。

「瑞穂ビューパーク」の近くに慰霊塔があるという案内板を見て、ふと寄ってみた。長く直線的な階段だったが、まだ歩き始めのときだったから、元氣よく上った。丘を上りきると、大きな石塔と芸術的なモニュメントがあった。

これは、あとで調べたら、昭和32年に瑞穂町が作った、戦没者のための慰霊塔であり、狭山丘陵の一角のお伊勢山で、町並みを見下ろすことのできる

場所にしたという。かなり大きなものだった。石塔の写真はうまく撮れなかった（不審者が前を横切り、石塔を隠した）ので、モニュメントだけを示す。手前のいくつかの石板に戦没者名が刻まれている。



瑞穂町 戦没者慰霊のモニュメントと石板

そこからハイキングコースが延びていたのだが、深入りしすぎると思い、ここは一旦引き返した。また、禅昌寺では「少飛の塔」に出くわした。武蔵

村山市大南（この地点から南西3キロのところ）に東陸軍少年飛行兵学校があったという。選抜された、十代半ばの少年たちが学んだ兵学校だ。海軍の予科練と同等な施設だったのかもしれない。その訓練飛行は多摩陸軍飛行場で行なわれたのだろう。



「少飛の塔」  
禅昌寺・観音堂の隣にある

兵学校を出てから実戦に臨んだ彼らの多くは、戦没したわけだ。抜群に性能のよい米軍戦闘機、訓練十分

で、連係プレーに徹した米軍パイロットたちを相手にしては、若い未熟な航空兵ではとうてい太刀打ちできなかったろう。それとも、特攻に行かされて亡くなったのかもしれない。

その慰霊のための塔であり、大きな五輪塔のような形をしている。まだ真新しいものだった。

そんな寄り道しながらも、約一時間後、武蔵村山市総合運動場の奥にある赤坂谷戸についた。

私は遊歩道沿いに歩いていくと、間もなくフェンスに囲われた怪しい一角を見つけた。そばには案内板がある。「防空壕」の説明が書かれていた。これは素掘りした横穴の一つであり、崩落の危険があるから、今ではほとんどの横穴は埋め戻されたという。

公園管理者は歴史的な現存資料として数カ所を残したが、鉄条網付きのフェンスでしっかり囲い、一般人が中に入らないようにしている。暗い穴の入口は、2メートル四方ぐらいだ。人が隠れるためのものなら、もつと小さく造るはず。中はどうなっているか、フェンスの外からではよく見えない。私はライトを持っていったが、あきらめた。

このあと、もう一つ、フェンスのあるところを確認してから、のどかなハイキングコースを回った。



(この回、終わり)  
三ツ木地区防空壕の一つ（防空施設）  
フェンスの向こうに旧多摩陸軍飛行場の  
物資を隠した横穴がある